

主題：アブラハム，イサク，ヤコブの神

メッセージ 15

ヤコブの神（5）

エル・ベテル 神の家の神，召会の神

聖書：創 35:1, 6-15, 27

- . ヤコブの生涯のあらゆることは、わたしたちによって成就される予表でした ローマ 9:11 . コリント 3:18 . エペソ 2:21-22。
- . 神の建造は、神の心の願い、神の救いの目標です 出 25:8 :
- A . わたしたちが救われたのは、神の建造の一部となるためです 使徒 4:10-12 .
 ペテロ 2:4-5。
- B . 神の建造とは、命としての三一の神がわたしたちの中に造り込まれて、わたしたちが彼の団体の表現となることです エペソ 3:17 前半, 19 後半, 21。
- C . 神の建造は神と人のミングリングです。神の建造の原則は、神がご自身をわたしたちの中に建造し込み、わたしたちをご自身の中に建造し込むことです ヨハネ 14:20 . 15:4 前半 . エペソ 3:17 前半。
- . 創世記第 35 章には、神の個人的な経験から神の団体的な経験、すなわちベテルの神としての神の経験への重要で急速な転換があります ヨハネ 14:2-3, 20 . エペソ 3:17-21 . 4:4-6 :
- A . 創世記第 35 章 7 節には、新しい神聖な称号、「エル・ベテル」、神の家の神があります :
- 1 . この章の前で、神は個人の神でした 28:13 前半。
- 2 . ここで神はもはや個人の神ではなく、エル・ベテル、団体の神、神の家の神です 詩 84:1-4, 10。
- 3 . ヤコブはベテルに着いた時、神の家の神として神を知るようになりました。
- 4 . わたしたちの神はベテルの神、召会の神です テモテ 3:15。
- B . ベテルは団体の命、すなわちキリストのからだを表徴します。ですから、神をベテルの神と呼ぶことで、ヤコブは個人の経験から団体の経験に前進しました コリント 12:12 :
- 1 . ヤコブがシケムで築いた祭壇は「エル・エロエ・イスラエル」と呼ばれ、それは個人に関連したものとしての神の御名でした 創 33:17-20。
- 2 . ヤコブがベテルで築いた祭壇は「エル・ベテル」と呼ばれ、それは団体に関連したものとしての神の御名でした 35:6-7。
- 3 . シケムでの祭壇は個人の祭壇でしたが、ベテルでの祭壇は団体の祭壇、神の家のための祭壇でした。
- C . すべてに十分な神は、ベテルの建造のために啓示されています。ベテルでのみ、わたしたちは神のすべてに十分なことを認識することができます 11 節前半 :
- 1 . 神がご自身をすべてに十分な方として啓示する目的は、彼の建造のためです。すべてに十分な神は神の建造のためです。

2. わたしたちは個人で、すべてに十分な神を経験することはできません。すべてに十分な神を経験するためには、ベテルに、召会生活にいなければなりません。
3. 神のすべてに十分なことは、からだを必要とします。わたしたちは彼のこの面を経験するために、家、建造を必要とします　ピリピ 1:19。
- D. 父、子、霊、召会は四・一です　エペソ 4:4-6：
1. 究極的に、召会は、三一の神との結合の中にあり、三一の神とミングリングされた一組の人です　3:16-21：
- a. 御父は御子の中に具体化され、御子はその霊として実際化され、すべてはわたしたちの中にいます。神と人は結合され、ミングリングされ、合併されています　ヨハネ 14:9-11, 16-20。
- b. 父、子、霊は一であり、わたしたちの中に住んでいます。ですから、わたしたちは四・一、神性と人性の合併です　2-3, 20 節。
2. 父、子、霊はすべてキリストのからだと一であるので、三一の神は今や「四・一の神」であると言うことができます。この四は、父、子、霊、からだです　エペソ 4:4-6。
- . ベテル、神の機能はキリストを表現することです　エペソ 1:22-23：
- A. 神の究極の目標はキリストの表現であり、キリストの表現は個人の事柄ではなく、神の家の中の団体の事柄です　ヨハネ 17:22 . ローマ 9:23 . エペソ 3:21。
- B. キリストを生み出してキリストを団体的に表現することは、わたしたちの天然の選択、天然の願望、天然の命の代価を払わせます　創 35:16-20。
- . ヤコブはさらに深くさらに個人的な対処を経験した後、ヘブロンで主との完全な交わりの中に入りました。ヘブロンでの交わりは、親密さ、平安、喜び、満足を意味します　27 節：
- A. わたしたちは召会生活の中にいますが、なおも旅をして、さらに深くさらに個人的な対処を経過し、ヘブロンに来て主との完全な交わりの中に入る必要があります　ヨハネ 1:3, 6 . コリント 1:9：
1. ヘブロンでの交わりで、わたしたちは主とのすばらしい親密さを享受し、完全な平安、喜び、満足を得ます。
2. ヘブロンはまた、わたしたちが命において円熟する場所でもあります　ヨハネ 14:20 . エペソ 4:13 . ピリピ 3:15 . コロサイ 1:28 . ヘブル 6:1。
- B. ヘブロンでの交わりは神との交わりだけでなく、キリストのからだの肢体との交わりでもあります　ピリピ 2:1 . コリント 1:9 . ヨハネ 1:3, 7：
1. ヤコブはヘブロンで、自分では何もできないことを認識しました。彼は、すべてのことは交わりの中でなされなければならず、交わりがなければ何事もなされ得ないことを知りました　ヨハネ 15:1, 5, 16。
2. わたしたちの肉が対処されているなら、わたしたちはキリストのからだの生活を知り、交わりの重要性を見て、からだの交わりから離れるなら生きていけないことを認識します　コリント 12:14-27。